

日本の美、伝統文化を装う 「きものを美しく着る会」



▲和気あいあいとした稽古の様子
(麻生市民館・和室)

人生の通過儀礼を彩る着物。お宮参り、七五三など、節目の機会には今でも多くの人が着物を着ます。着付けをしてもらった時、「自分で着られたら」と思ったことがある方も少なからずいるのではないでしょうか。「きものを美しく着る会(以下「同会」)」の最初は、もともと着物が好きだった代表の小林芳子さんが近所の人に教えた40年も前。現在は、麻生市民館で月曜日と火曜日(各月2回)、宮前区の小林さんの自宅で木曜日(月1回)、横浜市の北山田小学校コミュニティハウスで土曜日(月2回)に教室を開催、総勢30名ほどの会員がお稽古に励んでいます。

日本の伝統文化『着物』を学ぶ

小林さんの指導は、一人ひとりに合わせて行われています。まずは浴衣から始まり、普段着、訪問着、留袖から振袖まで、自分で着られ、着せられるようになるまで指導します。お稽古の基本的な流れはありますが、季節によって、人によって、臨機応変に指導しているそうです。会員の皆さん入会のきっかけは様々ですが、「嫁入りの時に母に用意してもらった着物を自分で着られるようになりたくて」「この着物とこの帯で、こういう着方を教えてほしい」と言って入会しました」と話す会員さんもいました。

着物は、長い歴史の中で受け継がれてきた、日本の伝統文化です。細かいルールが多く、難しいのではなく、つい消極的になってしまう方もいると思います。小林さんは、「上手にできたわね」「素敵よ」と、優しく声をかけながら、大事なところをきっちり指導。なごやかに稽古をしていく中で、着物・帯についての知識、着こなしのマナーなども徐々に学んでいくようです。



自分で着られるようになったら、今度は人に着せてあげられるようにお稽古。さらに、着付けの資格を取りたい人には、そのための指導をしていきます。

▲たまには着物でお出かけを。お稽古の後にランチ会♪(北山田教室)

艶やか、『着付け』ショー!

「踊りや楽器には発表会があるでしょう? 着物着付けには…と考えました」と小林さん。同会が所属している麻生市民館サークル連絡会主催の『あさおサークル祭』、小林さんが所属している宮前区文化協会の『文化祭』、『研究発表会』など、同会は舞台での発表にも積極的に取り組んでいます。

限られた時間内に、舞台上で着付けをする。着付けの手つきも動きも観客から丸見えです。相当な練習が必要なことは容易に想像できます。「皆さんもその時には頑張るし、発表の場があるのは良いことです」と小林さんが言うと、「その前は、すごく必死(笑)」と横にいた会員さん。小林さんの演出は毎回素晴らしい、出演するほうもワクワクするそうです。麻生市民館の教室には、『あさおサークル祭』の舞台を見て入会した会員が何人もいました。



▲舞台上で花嫁さんのお仕度

あるときは…
舞台上で早替わり
モダンな振袖姿から、七色の帯が映える凛とした着物姿に大変身!



着物に親しむ機会を広げていきたい

同会は、多くの人に着物に親しんでもらいたいと、舞台発表と同時に、着付けの無料講習会も開催しています。『あさおサークル祭』『みやまえJAM』などで実施していますが、毎回大勢の参加があるそうです。小林さんは、「着物を着て出かけたと写真を見せてもらったりすると嬉しくなります。着物を着たい人はたくさんいると思うのです。日本人らしさというのか、できれば、子どもの時から自分で着物を着る機会があるといいのだけれど。男性でも、『親が作ってくれた着物を着て、帯も結びたい』という方が何人もいました。機会があれば男性の教室も…と思っています」と話していました。

「襟(えり)を正す」「袂(たもと)を分かつ」など、着物に由来する表現も多くあるように、私たちの生活に根を下ろしている着物。着物を着て帯をしめると不思議と背筋が伸びるという方もいますね。伝統文化の一つを、装うことで継承していく活動を続ける「きものを美しく着る会」。

“きもの姿の美しさを再発見してみませんか?”

■きものを美しく着る会

代表 小林 芳子

電話 044-866-2652 090-5411-8391

メールアドレス kituske_i-asa@yahoo.co.jp